

V. 研修・出張報告

1. 第51回東海・近畿地域附属農場協議会

友廣教道

開催期日：平成22年7月29日～7月30日

開催場所：名城大学

1) 会議内容

(1)平成23年度の地域協議会当番校の選出

平成23年度の地域協議会当番校として石川県立大学が選出された。

(2)附属農場等技術職員の質向上に役立つネットワーク作りの調査

前年度と同様、本年度もネットワークを活用する方向で承認された。また、前年度と同様、技術等発表会（技術集録）は地域幹事校が取りまとめることになった。

(3)本年度アンケート調査結果

本年度の初夏から宮崎県を中心に問題になった口蹄疫に関して、各大学附属農場およびセンターの畜産分野における防疫方法等についてアンケート調査を基に協議された。

2) 技術等発表講演会

「大学附属農場飼育環境下における家畜排泄物利用がほうれん草の生育と成分に及ぼす影響」（名城大学）、「苗基部の直径がタマネギの抽台に及ぼす影響」（三重大学）、「大学附属農場における作業効率化をめざしたブドウ棚仕立ての樹形の検討」（名城大学）が各担当者から発表された。

3) 現地見学

(1)名古屋市農業センター（名古屋市）見学

しだれ梅が約700本植栽され、国内有数とされているしだれ梅園、竹林、ペゴニアを中心とした花卉温室を見学した。また、日本3大地鶏として有名である名古屋コーチンが飼育されている鶏舎、牛、羊、山羊の放牧場を見学した。

(2)愛知県農業総合試験場（愛知郡長久手町）見学

試験場で実施されている試験内容の紹介があり、その後、広大な場内の園芸研究部、作物研究部の圃場を見学させてもらった。特に目をひいたのは、自動管理システムで管理されている温室であった。



写真 名古屋市農業センター



写真 愛知県農業総合試験場

2. 平成22年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会

文室政彦

開催期日：平成22年9月30日～31日（担当：岐阜大学）

開催場所：岐阜市内のホテルパーク

1) 会議内容

(1) 協議・報告事項

協議事項では、農場の教育関係共同利用拠点認定制度への対応が協議された。

申請した大学：東北大、筑波大、宇都宮大、京都大、広島大、岡山大 採択された大学：宇都宮大、広島大 申請を検討した大学：北海道大、岩手大

採択された大学の申請書の内容について説明があり、宇都宮大からは、複合型の農場で、分野横断的に利用でき、ニーズや社会的使命があることを強調。受理された理由としては、文科省にやる気を印象づけた。本年も募集があり、採択に向けて情報交換をする。

承合事項として、大学農場・センターの口蹄疫への対応について、アンケート結果が説明された。

報告事項では、「第122回農学系学部長会議への意見・要望」が6月3日付けで出され、農場の教育関係共同利用拠点の認定、フィールド実習教育の質保証とその基盤となる人的、予算的処置、食育の取り組みについて、要望が出された。

「食育の推進」については、6月2～8日の、新宿高島屋でフェア等が盛大に開催された。今後、第3回食育シンポジウムを開催予定。

「第3回技術職員等意見交換会」が「大学は美味しい!!」フェア（新宿高島屋）開催中の6月7日に、9大学16名で開催された。また、今回の協議会の昼食時間に技術職員が集まり意見交換会が開催された。今後、技術員を中心となって技術職員集会を開催する。新たに規約を設ける。

「附属農場におけるフィールド教育の質保証を基準化」をするために、スケジュールとメンバーを決め、2年以内にミニマム基準を作る。ワーキンググループを委員会に、また科研費の申請を行う。

全国演習林協議会との情報交換を進める。将来的に、共通課題についてシンポジウムを開催したいとのことであった。

(2) 平成22年度全国大学農場技術賞・教育賞表彰式および発表会

「大学農場技術賞」は岩手大田口芳彦氏、三重大宮崎洋介氏、大阪府立大西田哲治氏、島根大武田久男氏に、「大学農場教育賞」は千葉大渡辺均氏に贈呈され、各受賞者から受賞講演が行われた。

3) 教育研究集会シンポジウム

特別講演として「岐阜の鶉飼」の題目で、宮内庁式部職鶉匠 山下哲司氏、「養鶏用資料としての飼料米―岐阜県における取り組み―」の題目で、岐阜県養鶏農業協同組合技術顧問 後藤徳彦氏が発表した。

3. フードテック2010 国際食品産業展2010大阪

岸 昌生

開催期日：平成22年9月7日～10日

開催場所：インテックス大阪

展示内容：フードテック2010において湯浅農場および生石農場の生産物を展示して大学附属農場のアピールを行った。生石農場からは、「近大おいし牛」と「近大おいし鴨」を出品した。来場者はたいへん多く、さまざまな質問があり盛況であった。近畿大学といえば、「近大まぐろ」が有名であるとの認識が多かったが、今回附属農場で生産している生産物を知ってもらえる良い機会ができた。この展示会の影響で、複数の業者より「近大おいし牛」と「近大おいし鴨」を流通して欲しいとの依頼があり、今後の拡大販売に繋がることを期待している。



写真 フードテック2010での展示模様

4. 日本畜産学会第112回大会

岸 昌生

開催期日：平成22年3月27日～30日

開催場所：明治大学駿河台キャンパス(東京都千代田区)

内容：日本畜産学会賞を受賞された万年氏(神戸大学)より「牛肉品質に関連する遺伝子の同定と利用」と題して講演があった。近年、牛肉の美味しさの評価として、不飽和脂肪酸の含有量が影響していることが分かってきた。とくに、不飽和脂肪酸の中でもオレイン酸が食味に影響している。そこで、演者は牛において飽和脂肪酸から不飽和脂肪酸に合成する酵素(SCD)の遺伝子に着目し、その遺伝子(SCD遺伝子)について調べた結果、翻訳領域にアミノ酸変異を伴う一塩基の置換があることを発見し、そのタイプ(AA, VV, AV型)によって、不飽和脂肪酸含有量が異なることをつきとめた。これは、SCD遺伝子を一つの指標として肉牛の育種改良を行えば、良質な牛の生産に繋がる。当農場でも、肉牛の繁殖を今後行う予定にしており、このような技術を導入して、高級牛の効率的な生産を目指したいと考える。なお、生物理工学部との共同で一般発表を行った(演題名：ポリジメチルシロキサン製マイクロウェルの容積と胚数がウシ胚の初期発生に及ぼす影響)。